

株式会社 片木アルミニウム製作所

アルミ圧延品の品質を磨き、
無限の可能性を引き出す

事業内容

一貫生産体制を整える中堅メーカー

アルミ製品素材を製造する中堅メーカー。アルミニウムの溶解から圧延、プレスなどの一貫生産体制を整え、コイルや角板、丸板などのアルミ圧延品を生産している。国内の中小アルミメーカーでは唯一、0.2mm以下の薄板材も手がける。圧延品の用途は電子部品、変圧器巻線材、電線被覆材、自動車ラジエター、熱交換器フィン材、コンロや炊飯器の部材など多岐にわたる。

アジア地域のアルミ工業発展に寄与

大阪府泉南市と鳥取県西伯郡大山町に製造拠点を持つ。短納期、小ロットへの対応はもちろん、さまざまな性質や機能を持ったアルミ合金の製造など顧客の要望に応じた生産を得意とする。

各国の要望に応じて、1950年代からミャンマー、タイ、韓国、インドネシア、中国などに製造プラントの輸出と技術供与を進め、アジア地域でのアルミニウム工業の発展にも寄与してきた。

補助事業

アルミ光輝材の開発に取り組む

高付加価値製品開発の一環として、平成26年からアルミニウム光輝材の研究開発に取り組んできた。アルミニウム光輝材は光沢に悪影響を及ぼす添加元素を減らし、光沢や強度を高める元素を適量加え、特別な圧延方法によって製造した材料。高級器物や化粧品ケースなど、装飾部材として需要が高い。

脱脂洗浄ラインを導入

アルミニウム光輝材は、板表面が平滑かつ柔らかいため、ほこりなどの異物が付着していると、ローラーによる圧延工程で表面にキズが発生してしまう。また、ほかの製造工程で潤滑油の油膜が表面に付くことも少なくない。この課題を解決し、アルミニウム光輝材の高品質化を実現するために、中小企業庁の「ものづくり補助金」の採択を受け、表面を清浄にするための脱脂洗浄ラインを平成28年12月、泉南工場（大阪府泉南市）に導入した。

株式会社 片木アルミニウム製作所

代表取締役社長 片木 威(たけし)

〒590-0504 大阪府泉南市信達市場2045

TEL. 072-483-5555 FAX. 072-482-1133

資本金/60,000千円 従業員/130名

主な取引先/電気機器、電線、重電、自動車、機械など、各種メーカー

主な保有設備/溶解炉、鑄造装置、圧延機、テンションレベラー、スリッターライン、シャーライン、プレス機、焼鈍炉など

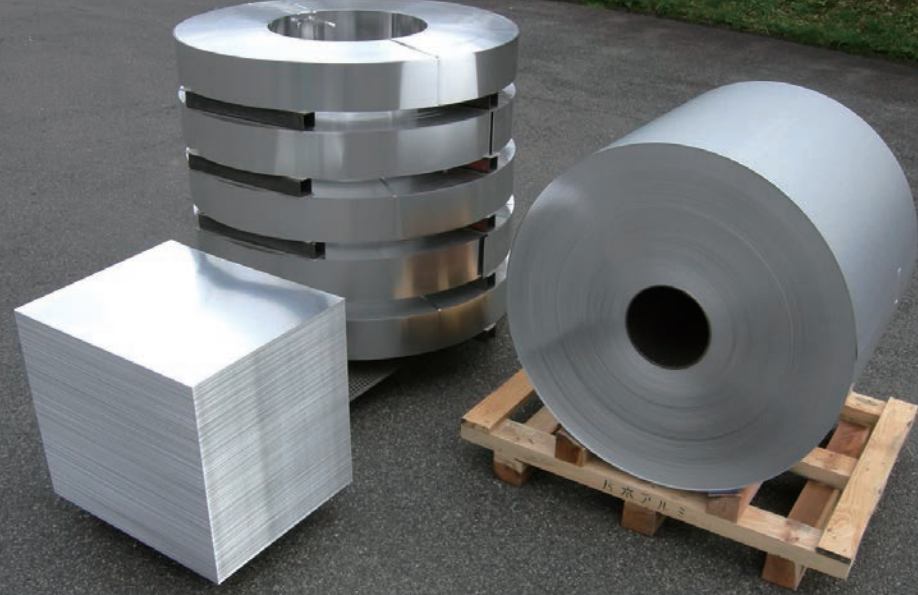
主力製品/アルミ圧延品(角板、丸板、コイル)

短納期 企画力 小ロット OK オール7x24 生産 OK 海外対応 試作 OK 連携力

「片木ブランド」の構築へ

代表取締役社長 片木 威(たけし)

小ロット、短納期といった自社の強みや、品質に磨きをかけています。その結果として「片木ブランド」と呼ばれるような製品群や信頼が生まれれば、大手メーカーとの競争にも対抗できると考えています。



各種形状のアルミニウム圧延品



泉南工場に新設の脱脂洗浄ライン



アルミニウムを溶かす溶融炉

具体的成果

清浄度向上に手ごたえ

脱脂洗浄ラインは、アルミニウム板を毎分75mの速度で、コイル状のまま連続して洗浄できる。大量の洗浄液を板の表面に高圧で吹き付ける方法を採用している。コイルから切断した板の状態では洗浄処理を行っていた従来設備と比較して、処理効率率は約20%向上した。

ラインの長さは15m。板幅330mm～610mm、板厚0.5mm～4mmのアルミニウム板に対応する。小さな異物が残りやすい板の両端は、ライン上で高精度にカットすることができる。「ライン導入前の予想よりも美しい仕上がりになった。表面の清浄度が向上したことで、製品価値が上がった」と、片木 威 社長は手ごたえを語る。

情報技術活用で省人化も進める

ラインは、タブレット端末での操作が可能。運転中、離れた場所での監視もできるようになり、作業効率は大きく向上した。また、技術者や品質管理者が洗浄された板をいち早くチェックできるよう、脱脂洗浄ラインを導入した泉南工場と大山工場の品質保証部をインターネットで結び、高精度カメラで撮影した表面画像をリアルタイムで見ることができるよう仕組みも整えた。

今後の戦略

化粧品ケースなど販路開拓に注力

平成28年6月期の売上高は30億3,800万円。ここ数年、横ばいが続いている。アルミニウム圧延品の国内市場の大きな伸びは見込めないことから、「新開発製品の売り込みで業績拡大を目指す」と片木社長は話す。その大きな戦力と期待するのがアルミニウム光輝材だ。用途としては、化粧品ケースや照明器具、反射材向けが有望。現在、販路開拓に力を注いでおり、月あたり15t～20tの販売を見込んでいる。

コツコツと真面目に課題に取り組む

アルミニウムは、軽い、美しい、加工性に優れる、熱や電気の伝達率が高いなどの特徴を持つ。片木社長は「アルミニウムの可能性は無限にある。それを引き出していきたい」と意欲を燃やす。

今回の泉南工場への脱脂洗浄ライン導入は、光輝材だけではなく、同工場で生産するすべてのアルミニウム圧延品の清浄度や品質の向上につながっている。アルミニウムの可能性を引き出すために、今後も生産設備の充実や新製品開発、人材育成など、「目の前の課題にコツコツと真面目に取り組んでいく」と片木社長は語る。未来を切り拓くための挑戦は、日々続けられている。

取材を終えて

現場主義が企業としての
強みの源泉

「情報技術はあまり信用していない」という片木社長の言葉が印象に残っている。社長自身、製造現場や取引先、顧客のもとに積極的に足を運び、自席を温める時間は少ないという。最前線で技術や品質を確かめ、人と直接会って情報を集め、自身のアンテナを頼りに潮目を読む。この現場主義は、企業としての強みの源泉でもあると思う。「100年企業を目指す」と語る片木社長には、目標達成までの道程もはっきりと見えているはずだ。